ふるさとの温かさ

美加の台中学校　八木　彩花里

　私が思う河内長野の自慢は、豊かな自然とその環境です。特に私の住んでいる美加の台は、大阪の都会というイメージとは反対に緑が多く、ふるさとのような温かさを感じます。また季節によって葉の色が緑や赤に変わり、色々な雰囲気を楽しむことができるのです。

　河内長野の自然の豊かさを改めて感じたのは中学生になってからです。標高の高いところにある中学校から見た景色は、緑であふれていて、いくつもの山が連なっているのが見えます。遠くに見えるあべのハルカスと周りにある大きな建物のせいか、よりこちらの自然の豊かさが感じられました。葉の色については、延命寺の紅葉がとてもきれいです。夕照もみじを見に、お父さんと延命寺に行ったとき、とても幻想的な景色に出会いました。私が鮮明に覚えているのは、池に映った真っ赤な紅葉で、見た瞬間あまりの綺麗さに衝撃を受けました。

　他にも私の住む美加の台は、冬になるとごくまれに雪が積もります。美加の台から離れた場所に住んでいる人は、

「この辺は雪が積もらないし、なんなら雪さえ降らない。」

と言っていました。このことから雪が降り、積もる美加の台は環境に恵まれているのだと思いました。それに雪が積もった日のあの白景色が私はすごく好きです。

　もちろん都会のきらきらとした感じも良いと思います。ですが、この身近で感じられる自然というのもとても魅力的だと思います。

河内長野にはふるさとにしかない魅力がたくさん詰まっていると思うので、それを誇りに思って大切にしていきたいです。